

此外香道具品多しといへども、此七つを要具とす。米川家には香匙を以て火味にかへ、七つの道具といへる名目は、當流にはあらざる事なりとぞ。

〔香道千代の秋上〕香道具名目

熏物箱たきものばこ今世上に沈箱と云ふもの元來熏物たきものをにおさむ物、十炷香箱じゆじやうばこ諸事の香道具、香爐たきもの對の香爐を賞説とす、
 たりたる木香爐たきもの金銀葉たきもの雲母たきもののものを用、金銀のものがはなれは、同香合たきもの銀葉香箱たきものに、火末入たきものも
 つき次第用べし、かさりの一札たきもの十人前たきものの品により、瀧の糸に圖あり、さし札たきもの形色々あり、軒の
 筒形色々、唐木象牙などに、銀盤たきもの青貝にて花の形あり、敷紙たきもの大鸞檀紙を用、金銀の、火筋立たきもの道
 具を立置瓶たきものなり、香包たきもの十組の形、流義により、同外包たきもの摸様を以て十組をわかつ、其外、銀はさ
 瀧の糸に圖あり、香筋たきもの同、香筋たきもの同、炭押たきもの同、羽帚たきもの同、火味たきもの同、香匙たきもの同、此分秋の光
 みは秋の光たきものに注す、鶯たきもの同、火筋たきもの同、香筋たきもの同、炭押たきもの同、羽帚たきもの同、火味たきもの同、香匙たきもの同、此分秋の光
 團入たきもの香壘たきもの香盆たきもの香棚たきもの香割たきもの香鋸たきもの香割盤たきもの組香之盤たきもの立物類たきもの置物類たきもの文庫盤たきもの立
 物たて、折居たきもの伽羅冷たきもの香單子たきもの香之圖たきもの折本たきもの香屏風たきもの巾卓たきもの翰盤たきもの丸香臺たきもの
 右道具類文字強て改、本字をもちひず、只俗間兒童の用來る所の文字を以てまゐるし侍る、本字
 秋の光の附録香志にあらはす、故に今爰にまゐるし侍らす、考見るべし、

〔大安寺伽藍縁起流記資財帳〕合香坏參拾漆合佛物卅六合之中、一合銀、重
 合香爐貳拾肆具佛物十八具之中、一具銀、重三斤三兩三分、通物一合、赤銅十三具、白銅一具、鑰石、常住僧物、一具、高麗、通物四具、
 合單香并香鉢并其盤貳拾貳口佛物單香十六具、常住僧物、其盤二口、○中略
 右前岡本宮御宇夫皇以庚子年納賜者

〔空穂物語 藤原の君〕まろがねのひとりに白がねのこつくりおほひて、ちんをつきふるひて、はい
 にいれて、またの思ひにすへて、くろほうをまろがしてそれに、
 ひとりのみ思ふ心のくるしきにけぶりもしるくみへすやあるらん、くもとなる物ぞかしと